

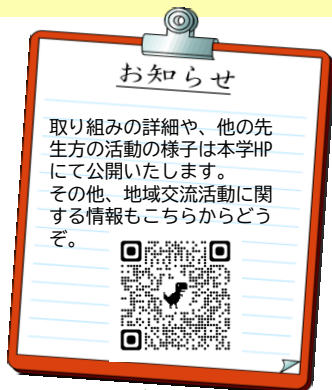


# 地域交流活動かわら版



## 2021年度 助成費を利用したさまざまな取り組み

地域交流推進室では毎年、地域活動を支援する助成費について、学内にて広く公募しています。地域の課題解決や活性化、産学公連携活動に寄与する【研究】活動、あるいは学生教育を伴った【社会貢献】活動についての助成があります。また、地域総合研究所が定めるテーマを研究する【杏林CCRC指定研究】は研究員の先生方が積極的に取り組んでいます。今年度の活動について、各責任者からの報告をもとにご紹介します。



### 地域活動助成費【社会貢献】

地域活動助成費に関するお問い合わせは、地域交流課まで

### 1 子育てに不安を抱える保護者への心理的支援—オンライン子育て相談会から見えてくるもの—

責任者:五嶋亜子先生(保健学部 臨床心理学科 講師) 分担者:櫻井未央先生(保健学部 臨床心理学科 講師)



五嶋亜子先生

就学前の子をもつ保護者を対象に、オンラインでの個別相談会を開催しました。2年目の今年は、ちょっとした困りごとを相談できる場として機能することができ、地域の保護者が抱える、子育てにまつわる潜在的な課題を解決していくための心理的支援のあり方について検討しました。引き続き保護者が安心して気軽に話ができる場を定期的に提供できるよう支援を続けていきます。



### 2 Mindful Community Project

責任者:岡村 裕先生(総合政策学部 教授)



岡村裕先生

地域の人々が心静かにお互いを思いやり、よりよい生活を送ることができることを目的として、欧米を中心に研究が進められているマインドフルネス「**こころのエクササイズ**」について、正しい知識と実践方法を周知する取り組みをゼミ生とともに行いました。周知にあたっては実践ハンドブックを作成し、コロナ禍の状況に応じて、オンラインや対面でワークショップを開催しました。活動を通じて、説明方法に関する工夫や効果的な周知方法などを学生とともにブラッシュアップすることができました。



岡村ゼミで作りました!

マインドフルネス  
実践ハンドブック  
Mindfulness Handbook  
2021年版



杏林大学  
総合政策学部 岡村ゼミナール

### 3 市販集音器を活用した補聴効果体験

責任者:増田正次 先生(医学部 耳鼻咽喉科学 准教授)  
分担者:耳鼻咽喉科学教室 坂本龍太郎(専攻医)濱之上泰裕(助教)木村泰彰(医員)



増田正次先生

健康寿命の増進、認知症やうつ対策として難聴への対策が強化されている中、高額な補聴器を患者に進める立場にある医療者として、自身や職員、当院の外来患者が気軽に補聴器を体験しやすい環境をつくるための取り組みです。活動にあたって、難聴者と健聴者を被験者として補聴器や集音器を体験した結果をまとめました。



### 杏林CCRC指定研究

2021年度  
指定テーマ

「生きがい創出」「健康寿命延伸」「ウェルネスツーリズム」  
「持続的発展可能な少子高齢社会像の構築」「岩手県における地方創生」

### ●「健康寿命延伸」～難聴を伴う高齢がん患者への意思決定支援サポートに関する研究～

責任者:水谷友紀先生(医学部 総合医療学/腫瘍内科学 講師)



水谷友紀先生

本研究では、昨今増加している難聴を伴う高齢がん患者に、病状の説明が十分に伝わるように様々な具体的方策を提案することを目的としています。iPadを利用した文字起こしやネックスピーカー、比較的安価な集音器などについて実証実験を行い、メリット・デメリットを検証しました。実際にはこのような研究によって、医療者が患者の難聴に配慮することが患者にも伝わり、コミュニケーションがとりやすくなるというメリットもありました。研究を通してSDM(医療者と患者が科学的な根拠を共有して一緒に治療方針を決定すること)が積極的に行われることを目指す取り組みを進めていきます。



## 地域総合研究所(旧:杏林CCRC研究所)



2015年より本学地域交流推進室で取り組んできた「地(知)の拠点整備事業(COC)」、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」が完了しました。これを受けて当時設置された杏林CCRC研究所も2021年7月、新たに「地域総合研究所」として再スタートを切りました。今後はCOC分野に加え、地域志向の研究を受け入れる器として新たなテーマにも取り組んでいきます。

研究員は本学の医学部・保健学部・総合政策学部・外国語学部のすべての学部の教員で構成され、学部横断で地域の課題に取り組むことが可能となり、また、外部から客員の研究員も委嘱し、様々なテーマの研究活動を進めています。

## 「がん教育」のこれから オンライン講演会 【第10回CCRCフォーラム】



2022年3月12日にオンラインで行われた第10回杏林CCRCフォーラムでは、「がん教育のこれから」と題し、がんになっても安心して暮らせる地域を目指すべく、小中高生へのがん教育に焦点をあてました。

講演ではまず、地域総合研究所の所長を務める**医学部腫瘍内科学の長島文夫先生**が、ご自身に依頼のあった高校での出張授業の取り組みとがん教育におけるこれからの課題についてお話されました。続いて**保健学部看護学科の中島恵美子先生**から「がん患者を親に持つこどものサポート」について講演がありました。子どもに親のがんについて病状をどう伝えるか、子どもの年齢に応じた伝え方など、方法選択の重要性を述べられ、また地域のサポートグループの紹介などの情報提供がありました。



最後に**杏林大学附属病院庶務課の橋詰崇課次長**から「治療費を支援する制度」について講演がありました。病院でがんが診断されたらどのくらいの費用がかかるのか、窓口支払いの負担を減らせる制度など、様々な支援体制が整えられている、相談できる窓口もあります、とお話されました。



参加者は10代から60代まで幅広く、「これまで「がん」と言うと、当事者のことばかり想定して、患者を親に持つ「子ども」の側面からはあまり考えてきませんでしたので、大変興味深く拝聴させて頂きました。」などの感想をいただきました。

2人に1人はがんに罹る時代、学校現場ではがん教育について様々な課題が挙げられています。附属病院の診療実績と大学の持つ知識・研究技術を地域の教育に還元できるよう、今後も「がん教育」に取り組んでまいります。

**メールアドレス登録フォーム**  
 ご登録いただいたメールアドレスに地域交流課からのお知らせをお送りします

## 杏林大学 × 自治体との連携

本学ではこれまで、様々な自治体との連携をすすめてきました。地域の課題解決のための活動や、学生の教育支援活動などの交流を通して相互の発展に資することを目的として包括連携協定を締結しています。2021年度は連携市を拡大し、さらに活動の幅を広げています。

### 2021年12月 静岡県東伊豆町

関東屈指の温泉地でもある東伊豆町とは、その「温泉」ブランドを活かしたウェルネスツーリズムの確立を目指し、本学の強みである保健、医療に関する研究資源の活用や、教職員・学生と地元の方々との交流活動を活発に行っています。



### 2022年1月 秋田県湯沢市

秋の宮温泉郷と締結していた「まちづくり・観光事業に関する連携協定書」をもとに、更に他分野での協力・交流を可能にするため、包括連携協定を結ぶこととなりました。「かだる雪まつり」などは長年学生がスタッフとして関わっており、今後もイベントの活性化に貢献していく予定です。



### 2022年3月 宮城県 東松島市・石巻市

地域密着型体験学習として、総合政策学部で新たにスタートする「コミュニティ・ベースド・ラーニング」の実習地として学生の受入をお願いしています。協定の締結をきっかけに、授業以外の方でも交流を深め、東松島市、石巻市のまちづくりや地域発展に寄与するべく取り組んで参ります。



これまでの自治体との交流活動についてはコチラ



ひきつづき、地域交流活動にご期待ください

